



今月の主な目次

- 21世紀の酪農展望
- 牧草優良品種の紹介
- サイレージ用トウモロコシ・ネオデント・系の品種紹介
- 札幌編・乳中尿素窒素 (MUN) の活用事例紹介

- 平成12年産粗飼料の成分値の傾向について
- 乳牛専用の総合栄養サプリメント・スーパーライザー

ごあいさつ

平成一三年、二一世紀の新春を迎え、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は弊社にとって、大変な激動をもたらした年となりました。春、九州に引き続き北海道でも口蹄疫が発生し、その対策に社内一丸となって万全をつくし対処しました。そして七月、雪印乳業の食中毒事件が発生し、一般消費者はもちろんの事、酪農家の皆様にも多大なるご迷惑をおかけしてしまいました。弊社は雪印グループの一員として、また、弊社の大事なお客様である酪農家の皆様に窮地に追い込んでしまった事について、ここに改めて心よりお詫び申し上げる次第です。

製品は商品として流通させるために、企業としてしっかりとした理念に基づいた品質管理システムを持つ事は当然であります。そのシステムが確実に厳しい目の中で実行され、製造物に対する責任を持つ事は、企業が成立つための必要最低限の条件と考えます。

弊社が皆様に提供している、生き物としての種苗、食物としての飼料は、特にその品質がすべてを左右し、またお客様の経営に直結する商品と考えております。会社創立以来五〇年間で培った品質管理技術を常に実行してまいりましたが、今一度細部に渡り点検を行い、更にレベルの上げた品質管理体制を構築し、皆様に安心してご利用いただける製品作りに邁進して参ります。

二一世紀は、地球環境の保全が全世界にとって大きい課題として捉えられています。農業についても例外ではなく、国際競争に勝てる低コスト型の農業が大事になる上に、更に環境を考慮した農業が要求されています。日本国として、このような状況下で生き残っていく農業形態を明確にし、国民全体がこの二一世紀の農業のあり方を考えなければならなくなるでしょう。

弊社はすでにここ数年より、低投資型農業の重要性を訴えてきました。弊社の理念である「健土健民」思想を土台として、緑肥の開発、耐病性品種の開発、利用率の高い品種の開発、ふん尿処理技術の開発、更に食品工場の排水処理資材の開発を行い、環境を重視し生産性、利用効率上がる商品の開発に力点を置いてきました。

これからも鋭意研究に励み、生産コストの低減、生産物の高付加価値化に役立つ商品の提供などを続け、更に皆様のお役に立つ様、従業員一同努力してまいりますので、今後ともよろしくご支援ご鞭撻の程お願い申し上げます。

新年を迎えるに当たり、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心から祈念申し上げ、併せて本年も相変わらませぬご愛顧と、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成一三年 元旦

雪印種苗株式会社

取締役社長 菊地 庸